

WWD

FOR JAPAN

December 11 vol.1396

川久保玲、山本耀司のDNAは受け継がれる

「コムデギャルソン」 「ヨウジヤマモト」 卒業生たちの今

業の上の存在です。川久保玲あるいは、山本耀司のDNAを受け継ぎ、発展したデザイナーたちは口を揃えてそれぞれの前に最大級の敬意を表す。「ギャルソン」「コムデギャルソン」は、彼らのクリエイションに少なからず影響しているようにだが、果たして2人のDNAは受け継がれているのか? 13人の卒業生の証言を6人に聴き取る。(P.4に続く)

インタビュー

「トーガ」古田泰子...p.5 「マスターマインド」本間正章...p.6

岐路に立つ日本のラグジュアリー市場...p.11

デザイナーは今、何を考えているのか?

ゴルチエ、ステラ、ドリス、ジャイルズにインタビュー...p.12-13



メンタルな部分で つながったから、 フランス人であることは 意識しなかった。

シ rilル・デュバル / 「トキオン」ファッション・ディレクター

PROFILE: 1977年12月31日パリ生まれ、28歳。アートスクールでコンセプチュアル・アートを学び、2003年来日。好きなブランドは、その生産の「コム デ ギャルソン・シャツ」

コム デ ギャルソン社に関わりがある人物が雑誌の表紙を飾ったケースが少なからずある。テナポラリーショップ「コレット・ミーツ・コム デ ギャルソン」でプロジェクト・マネージャーとして働き、現在はトキオン編集部でファッション・ディレクターを務めるシ rilル・デュバルもそのひとりだ。「僕がイメージする『トウキョウ』を伝えるにはそれが一番ストレートな方法だっただけ」とシ rilル。彼は生粋のバリっ子。母親はバリのエルメス社のアート・コンサルタントだ。彼はアートスクール在学中に「コム デ ギャルソン」のコンセプチュアルな広告ビジュアルに刺激を受ける。彼は卒業後の2003年来日。フリーランス・ライターとして働いて半年が過ぎた頃、「コレット」のサラとエイドリアン・ジョフィー＝コム デ ギャルソン バリ社社長の目に留まる。彼らはニューショップのコンセプトを伝える日本人以外のスタッフを探していた。「それが僕になったんだ。退社した今でも僕にアイデアを聞いて

てくれるよ」。クローズまでの7ヵ月間、シ rilルはコム デ ギャルソンで働いた。人生初の就職先だ。「メンタルな部分でつながったから、フランス人であることは意識しなかった」。イメージとのギャップはあったのか。「昔は夢とミステリーが同居した不思議な存在。今でもスピリチュアルに強い影響力がある。川久保さんが突出している部分は広い視野を持って人を率いる才能。近寄りがたいという人がいるけど僕はそうは思わない。いつも僕を見守ってくれていた。きっと周りもそう思っているはずだよ。彼女はファミリーに力を分け与えているんだ」。

近況

「TOKION」/INFAS パブリケーションズファッション・ディレクターのシ rilル・デュバルは「フラストレーション」を加熱させるファッション・システムが持つ「恐さ」を知っている。「リアルな親近感でトウキョウを表現したい」という彼のアーティストックな感性が垣間見える。

